

微生物学Ⅰ・Ⅱ、臨床微生物学Ⅰ・Ⅱ

1年次【前期】～3年次前期

片岡佳子、村上圭史、岡崎勝一郎

ここで紹介された資料は**蔵本2階授業サポートナビコーナーにあります**ので、どうぞご利用ください。
(同じ本が3冊以上ある場合は★の場所にもありますので、そちらもご覧ください)

図書

授業のテーマをつかみ事前学習や復習を効率的に進めるために、これらの図書を参考にしましょう

□ 臨床微生物学（最新臨床検査学講座） / 松本哲哉編 医歯薬出版 2017

→ 感染症を引き起こす微生物の基本的な特徴に加えて、原因微生物の同定や薬剤感受性試験に必要な情報が網羅されている。卒前教育で身につけておくべきことを効率よく学習できるテキスト。

【492.1||Sa】

□ 新カラーアトラス微生物検査 / 山中喜代治【編】 医歯薬出版 2009

→ 本書は、感染症診断の進め方、基本的な手技や検査材料の質の評価等について豊富な図表と写真で説明している。代表的な原因微生物の症例が多数掲載されていて、検査の流れに沿って効率よく学習できる。

【492.18||Sh】

□ メディカルサイエンス微生物検査学 第二版 / 太田敏子他編 近代出版 2016

→ 臨床微生物についての基本的なテキスト。感染臓器別に症状の特徴や原因候補微生物が説明されている。化学療法薬の特徴や薬剤耐性菌の耐性獲得の機序についても説明されている。

【492.18||Me】

□ 感染症レジデントマニュアル/ 第2版 藤本卓司著 医学書院 2013

→ 日常よく遭遇する感染症についてのスタンダードな考え方についてコンパクトにまとめられたテキスト。代表的な微生物ごとの臨床像やグラム染色所見の特徴がスケッチ図や写真付きで説明されている。

【493.8||Fu】

□ 目で見る感染症/ 原永修作, 藤田次郎編 羊土社 2015

→ 「目で見た診断ポイント」について、豊富な画像や図と解説が載っている。臨床検査技師も平成27年の法改正によって一部の検体採取が可能となっており、患部の“見た目”を知っておくことは今後ますます必要になるだろう。

【493.8||Me】

□ 検体採取者のためのハンドブック / 日本衛生検査技師会監修 じほう社 2016

→ 臨床検査技師も平成27年の法改正によって一部の検体採取が可能となったので、このテキストを用いて、検査専攻3年次に実習を行っている。検体採取に必要な解剖学的知識から、被験者への配慮、実際の手技と注意点、緊急時の対応までコンパクトにまとめている。

【492.1||Ja】

□ レジデントのための感染症診療マニュアル 第3版 / 青木眞著 医学書院 2015

→ 「感染症診療の原則」を基本骨格として、各種感染症の診療や治療薬、ワクチンについて、また重要な微生物とその臨床像についても詳細に説明されており、感染症の学修を深めるのになくてはならない書である。【493.8||Ao】

□ **これでわかる！抗菌薬選択トレーニング / 藤田直久編集 医学書院 2019**

→ 薬剤感受性試験の結果を読み解くトレーニングにおすすめのテキスト。主要な病原細菌の 56 症例の検査結果を提示して適切な抗菌薬の選択を考えさせる形式になっている。1 ページに 1 設問で次ページに解説があり、また微生物検査の知識をまとめた章もあり、とても取り組みやすいテキスト。

【492. 31 || Ko】

□ **臨床検査法提要 改訂 35 版/ 金井正光監修 金原出版 2020 年**

→ 臨床検査の実施に関するすべてが詳細に記載されている。

【492. 1 || Ri】

□ **戸田新細菌学 改訂 34 版/ 吉田真一、柳雄介、吉開泰信編集 南山堂 2013**

→ ヒトの感染症の原因となる細菌、ウイルス、真菌について、形態、生理、生化学の他、感染症を引き起こすメカニズムから診断、治療、予防まで詳細に解説されている。微生物学の進歩に対応して改訂されてきたテキスト。

【491. 7 || To】

□ **臨床微生物検査ハンドブック 第 5 版/ 小栗豊子 三輪書店 2018**

→ 臨床微生物検査で行うあらゆる検査技術について詳細にまとめられた手引書。薬剤耐性菌の封じ込めに必要な耐性菌の検査にも重点が置かれている。

【492. 18 || Ri】

□ **抗菌薬おさらい帳 第 2 版/ 関雅文編著 じほう 2019**

→ 感染症の治療薬の特徴や使い方についてわかりやすくまとめられている。イラスト入りで、読みやすく、これなら最後まで読めるかもしれない！

【492. 31 || Ko】
